

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 15 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20791726

研究課題名（和文） 小児がん患者が求めるソーシャル・サポートとコーピングに関する研究

研究課題名（英文） Research on Social Support and Coping that the Childhood Cancer Survivor Needs

研究代表者

清川 加奈子 (KIYOKAWA KANAKO)

京都大学・医学研究科・助教

研究者番号：70432317

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：小児がん，ソーシャル・サポート，長期フォローアップ

1. 研究計画の概要

小児がんと診断を受け集学的治療が施行され、長期生存が望める時代となってきた近年、治療終了後も成長期にある子どもたちには、晩期障害を含む様々な問題が生じ、人生の質をも向上させるために、長期的なフォローアップが必要となる。

本研究では、小児がんの子どもが経験する長期の厳しい療養生活、及び、日常生活のQOLを向上させるために、小児がんの子どもおよび経験者の意識とニーズの調査、ならびに家族への意識調査を行い、当該患者の今後のケアのあり方を考案し、適切な時期に必要なとしている情報提供を行う等、サポート環境を整えられるよう計画を進めてきた。

2. 研究の進捗状況

(1) 小児血液腫瘍性患者の長期フォローアップ外来の環境整備について

2008年4月に開設された国立病院機構名古屋医療センターの小児科長期フォローアップ外来では、小児血液腫瘍専門医に加えて、小児内分泌専門医、産婦人科医、泌尿器科医、口腔外科医、精神科医、専任の看護師、臨床心理士が診療に参加している。研究者は開設準備期より、専任の看護師として診療に参加しており、その経験を踏まえて、2010年9月より、京都大学医学部附属病院小児科においても小児がん患者のための長期フォローアップ外来を開設することができた。

(2) 小児がん経験者の意識とニーズの調査、ならびに家族への意識調査について

2施設の長期フォローアップ外来において、小児がんの治療後の患者及び家族（保護者）に対し、妊娠・出産・生殖補助医療等の意識

のアンケート調査を実施し、当該患者と家族が求めている情報やサポートと、その意識の差異も明らかになり、その結果を、小児科及び産科婦人科に携わる人々に意識を高めてもらうために、日本小児がん学会、日本産科婦人科学会、日本受精着床学会、アジア・オセアニア産科婦人科学会で発表し、反響を得た。

。妊娠や性に関する質問も多いため、性科学学会への参加等により、がん患者の性についての情報収集も引き続き行っている。

また、当該患者だけではなく、きょうだいへのフォローも必要であると感じ、第8回日本小児がん看護学会においてワークショップを企画し、「すすめよう、きょうだい支援」と題し、開催した。臨床現場で、実際に当該患者とその家族に関わっている看護師や医師たちから反響を得た。

(3) 諸外国における当該患者のサポート環境の調査について

2008年9月、ブダペスト（ハンガリー）、アムステルダム（オランダ）で小児がん治療をしている病院での視察研修を企画し参加、2009年3月には、オークランド（ニュージーランド）で開催されたAOCOG（アジア・オセアニア産科婦人科学会）に参加、発表した。2009年9月には、ニューヨークのSloan-Kettering Cancer Centerの視察研修とオランダで開催されたAPHON（小児がん看護学会）に参加し、2011年2月には、ホノルル（ハワイ）で開催されたBMT Tandem Meetings（米国骨髄移植会）に参加した。上記により、入院環境やホスピタル・プレイ、入院中及び退院後の様々なフォローアップの情報収集と情報交換を行ってきた。

(4) 小児がん治療中の食事に関する質問が多く、看護師も回答に困るが、基準となるガイドライ

ンが国内になく、各病院で内容が様々なものになっているため、現在、近畿小児がん研究会看護部門と協力し、ガイドライン作成の準備中である。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

当初の計画よりも、学会発表等で関係者の意識を高めることができ、ニーズの調査は進展したと感じている。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 小児血液腫瘍性患者の長期フォローアップ 外来の環境整備について

国立病院機構名古屋医療センター小児科外来、及び、京都大学医学部附属病院小児科外来において、より順調に稼働させるため、患者Data および情報の整理と環境整備を進めていく。

(2) 小児がん経験者の意識とニーズの調査、ならびに家族への意識調査について

より多くの当該患者の声を収集し、ニーズに対して最新の情報提供を進めていく予定である。

(3) 諸外国における当該患者のサポート環境の調査について

2011年9月に、カルガリー(カナダ)のアルバータ小児病院と、シアトル(アメリカ)のシアトル小児病院と Fred Hutchinson Cancer Research Center を視察研修し、情報交換をするため、現在、プログラムを詰めているところである。

また、子どもの外来化学療法環境や長期フォローアップ外来の環境を整えるため、文献および学会参加(日本小児がん学会、日本小児がん看護学会、近畿小児がん研究会、および国際学会等)により、海外で行われているシステムを参考にし、より充実した環境を整えていく。

(4) 引き続き、近畿小児がん研究会看護部門と協力し、入院・治療中の白血球減少時の食事・捕食に関するガイドライン作成の準備を進めていく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

菅沼信彦、亀田知美、清川加奈子、前田尚子、堀部敬三、他3名、小児血液腫瘍性疾患経験女性における骨形成ならびに骨代謝に対する卵巣性ステロイドホルモン補充療法の効果、成長科学協会研究年報、34、125-129、2010、査読有

菅沼信彦、山内文、宮家槇子、亀田知美、清川加奈子、前田尚子、堀部敬三、濱島崇、小児血液腫瘍性疾患経験女性における骨形成なら

びに骨代謝の解析 ターナー女性との比較検討、成長科学協会研究年報、33、149-156、2009、査読有

〔学会発表〕(計10件)

清川加奈子、小川純子、ワークショップ:すずめよう、きょうだい支援、第8回日本小児がん看護学会(2010年12月18-19日、大阪)

田窪真知子、門倉美智子、清川加奈子、中嶋沙織、化学療法中の白血球減少時の捕食に関するガイドライン作成に向けて、第8回日本小児がん看護学会(2010年12月18-19日、大阪)

田窪真知子、門倉美智子、清川加奈子、中嶋沙織、化学療法中の白血球減少時の捕食に対する検討 - ガイドライン作成にむけて -、第32回近畿小児がん研究会(2010年3月20日、京都)

清川加奈子、小児がん経験女性における骨形成の解析 - ターナー女性との比較検討 -、第25回日本小児がん学会(2009年11月27日、千葉)

山内文、宮家槇子、清川加奈子、井田茉莉恵、中島良子、亀田知美、菅沼信彦、小児血液腫瘍性疾患患者における生殖補助医療に対する認識ならびに意識の解析、第61回日本産科婦人科学会(2009年4月3-5日、京都)

Kiyokawa K, Yamauchi A, Miyake M, Kameda T, Suganuma N, Construction of Support System in Assisted Reproductive Medicine for Survivors with Childhood Cancer, AOCOG (The XXIst Asian and Oceanic Congress of Obstetrics and Gynecology) (2009年3月27-30日、Auckland, New Zealand)

Miyake M, Yamauchi A, Kameda T, Kiyokawa K, Suganuma N, Analyses of Concern with Oocyte Donation in Female Survivors with Childhood Cancer, AOCOG 2009 (The XXIst Asian and Oceanic Congress of Obstetrics and Gynecology) (2009年3月27-30日、Auckland, New Zealand)

清川加奈子、山内文、宮家槇子、亀田知美、前田尚子、堀部敬三、菅沼信彦、小児血液腫瘍性疾患患者ならびにその家族における生殖補助医療に対する認識調査、第24回日本小児がん学会(2008年11月14-16日、千葉)

宮家槇子、山内文、亀田知美、清川加奈子、濱口元洋、菅沼信彦、血液腫瘍性疾患患者における生殖補助医療に対する認識ならびに意識の解析、第26回日本受精着床学会(2008年8月28-29日、福岡)

清川加奈子、宮家槇子、山内文、亀田知美、菅沼信彦、血液腫瘍性疾患患者に対する生殖補助医療サポートシステムの構築、第60回日本産科婦人科学会(2008年4月12-15日、横浜)